

シマフクロウの巣箱

藤巻 裕蔵

シマフクロウは大型のフクロウで、体長65~70cmで、雄より雌のほうが大きい。翼を開くと横幅1.8mもある。このフクロウは樹洞で繁殖するが、体が大きいだけあって、大きな樹洞を必要とする。このような樹洞のある木はかなりの大木であるが、最近は樹洞のある大木はほとんどなくなってしまった。シマフクロウが減少した原因の一つは、営巣に適した樹洞のある大木がなくなったことだと考えられている。

現在、環境省がシマフクロウの保護事業を行っているが、その主要な対策が営巣場所提供を目的とした巣箱架けと餌不足を補うための給餌である。巣箱はFRP製で、大きさは縦87.5cm、横幅64.5cmである。数値を示してもその大きさを実感



図1. シマフクロウの巣箱



図2. 巣箱架け

できないとおもう。そこで小学生4年の男子に巣箱の中に入れてもらった。二人が悠に入れる大きさである(図1)。

これだけ大きいと、架けるのも大変な作業である。まず、天然の樹洞と同じように木屑を敷いておく。次に大きな巣箱を架けても大丈夫なような大木を探す。適切な木が見つかり滑車とロープ

と使って巣箱を吊り上げ、上った人がそれを針金で木に固定する(図2)。これで完了である。

長期的な保護対策としてシマフクロウが棲める森づくりも行われているが、実際に大木になり、営巣できるような樹洞が出来るまでには100年にかかるだろう。それまでは現在と同じような巣箱架けが続くことになる。